



全労生・事務局長（基幹労連・特別役員）

西澤 昇治郎

全国労働組合生産性会議（全労生）は、2014年度第2回中央委員会及び中央研究集会を10月28日に開催した。

その概要は前号（11

月15日号）の紙面に詳しく認識している。言う

今の風潮に対する危機感や生産性運動への大

載されているので割愛

までもなく欠かすこと

ウシツプに関するリーダー

するが、全労生として

ができないキーワード

使用間でやや温度差も見

その開催の狙いや内容

は「真の生産性運動」

否応なく進展

および当日提起された

の追求と社会的な拡が

いる。こうした大局の

課題について述べてい

り、生産性三原則の今

役割、責任を果たし健

きたい。

目的解釈と実行であ

後ますます高まること

本年度55周年を迎える

。また、このことに

全で持続性ある日本経

た全労生は、これまで

対する正しい理解と認

済、社会の基盤を創る

## 「中央研究集会」を終えて

真の生産性運動の推進

識を労使、および政府

を凶る視点を忘れては

と浸透に邁進してきた

が共有することであ

活動の歩みを進める所

が、かつて類を見ない

る。本集会では産業の

存である。労組生産性

グローバル化や少子・

垣根を越え、約200

運動の裾野を拡げるた

高齢化の進行に直面す

人の労使の方々にご参

め、今後とも皆様のご

るなか、これら諸課題

集いただき多くの激励

協力、ご参加を切にお

に対する解決の方向性

を頂戴したが、その背

願い申し上げる次第で

を示す役割と責任を強

景には経済最優先の昨

ある。

「ピード感」やトップダ

控える2015春季生

ある。